

第36回大阪市廃棄物減量等推進審議会
次 第

日 時 平成19年7月6日（金） 午後2時から

場 所 大阪キャッスルホテル7階 梅の間

議 題 1. 大規模建築物における減量施策について
(ごみ減量等の先進的な取組事例の紹介)
2. 論点の整理と今後のスケジュール

第36回 大阪市廃棄物減量等推進審議会

資料 1

- ・ 前回の審議会(第35回)における意見等の概要 P1
- ・ 論点の整理と今後のスケジュール P2
- ・ 大規模建築物における減量施策について(まとめ) P3・4

第35回審議会における意見等の概要

【大規模建築物関係】

○大規模建築物であっても、厨芥類のリサイクルが進んでいない。

○厨芥類を全てひとくりにするのは難しい。調理された食品は油や塩を使っているためリサイクル(肥料・飼料化)に向かない。コスト面ではリサイクルするよりもごみとして処理するほうが安いなどの問題がある。

○大規模建築物の減量の取り組みについて、もっと周知を図る必要がある。

○ごみ減量に取り組んでいる事業所から、その実情を聞きたい。(第34・35回) など

【その他】

○無料で処理されている事業系ごみ(10kg未満排出事業者)が8.7万トンあるとのことだが、排出事業者
にコスト負担を求めるべきではないか。

家庭系と事業系の区分・棲み分けを整理する必要があるのではないかと。 など

論点の整理と今後のスケジュール

今回の審議

◆ 大規模建築物における減量施策

- ・ 大阪市の立入検査や減量報告書等により、排出実態の把握が可能。
- ・ 総体的に、ごみ減量・リサイクルが進んでいる。
- ・ 建物用途別では、「製造工場」、「事務所ビル」でリサイクル率が高い。
- ・ 品目別では、「紙類(その他紙除く)」、「缶」、「びん」のリサイクル率が高い。

○ 先進的な取組事例の紹介
(一層のごみ減量・リサイクルが、
可能か?)

次回以降の審議予定分

◆ 中小零細事業者における減量施策

- ・ 詳細な排出実態が把握できていない。
- ⇒ 対象とすべき品目・業種が特定できない。(ターゲットを絞れない。)

◆ 直営収集の10kg未満排出事業所

- ・ 調査の結果、約8万事業所、約8.7万トン、直営が無料で収集。
- ⇒ 事業系ごみを無料で収集して良いか？(排出者責任が不明確となっている。)

◆ 業者収集のアパート・マンション

- ・ 約11,000件(契約件数)、約8万トン、許可業者が有料で収集。
- ⇒ 直営収集と比べて、資源ごみ・容器包装プラスチックの分別が徹底されていない。

大規模建築物における減量施策について（まとめ）

1 大規模建築物における減量指導の対象

- ・ H 5.4月 特定建築物（ビル管法）：延床面積 3,000㎡以上
- ・ H11.4月 事務所ビル：延床面積 2,000㎡以上 \Longrightarrow H19.4月 延床面積 1,000㎡以上に対象拡大
- ・ 同 大規模小売店舗（大規模小売店舗立地法）：延床面積 1,000㎡以上
- ・ H15.4月 製造工場・倉庫建物：延床面積 3,000㎡以上

2 減量指導の実績（平成17年度）

- ・ 指導件数：2,395件（建物数）
 - ・ ごみ発生量：40.4万トン \Rightarrow うち、資源化量：16.3万トン（資源化率：40.4%）
- ※ 詳細は、別紙資料（第35回審議会資料）参照

3 大規模建築物における減量・リサイクル施策の特徴

- ・ 資源化量は、年々増加。資源化率も安定。
- ・ 建物用途別で、資源化率に差異が生じている。
【 資源化率： $\textcircled{\text{高}}$ 製造工場・倉庫（53.0%） \longleftrightarrow $\textcircled{\text{低}}$ ホテル・旅館（22.1%）、集会場等（29.2%） 】
- ・ 品目別でも、資源化率に差異が生じている。 \Rightarrow 「紙類」、「缶」、「びん」の資源化率は、ほぼ天井。
【 資源化率： $\textcircled{\text{高}}$ その他紙除く紙類（85.6%）、缶（90.6%）、びん（81.5%） \longleftrightarrow $\textcircled{\text{低}}$ その他紙（7.4%）、厨芥類（6.9%） 】

4 今回の論点（減量の手法とその課題）

① 対象物件の拡大が可能か？

⇒ 対象拡大した事務所ビルとの事前調整において、課題が生じている。

【新たに対象となった事務所ビル(1,000㎡以上)における課題】

- ・ テナントビルが多く、管理体制が確立していないビルが多い。
- ・ 廃棄物管理責任者の選任を求めているが、ごみの分別・減量方法等に対する意識や社内での体制が徹底されていない。
- ・ ビル全体のごみ量が把握されていない。(テナント毎の収集契約などによるもの)
- ・ ごみの保管場所が確保されていない。

② 「紙類」、「缶」、「びん」の一層の資源化が可能か？

⇒ 資源化率が80～90%となっており、一層の資源化を図ることは限界？

③ 「紙類」、「缶」、「びん」の他に、リサイクル可能なものがあるか？

⇒ リサイクル促進には、解消すべき課題が生じている。

【現状の課題】

- ・ リサイクルルートが整備されていない。
- ・ 品質が多種、多様のため、リサイクル物の最低必要数を確保することが困難。
- ・ リサイクルにかかるコストが高い。

④ リサイクル以外での減量手法があるか？

⇒ 「発生抑制」、「再使用」をどのように促進するか？

第36回 大阪市廃棄物減量等推進審議会

資料 2

ごみ減量等の先進的な取組事例の紹介

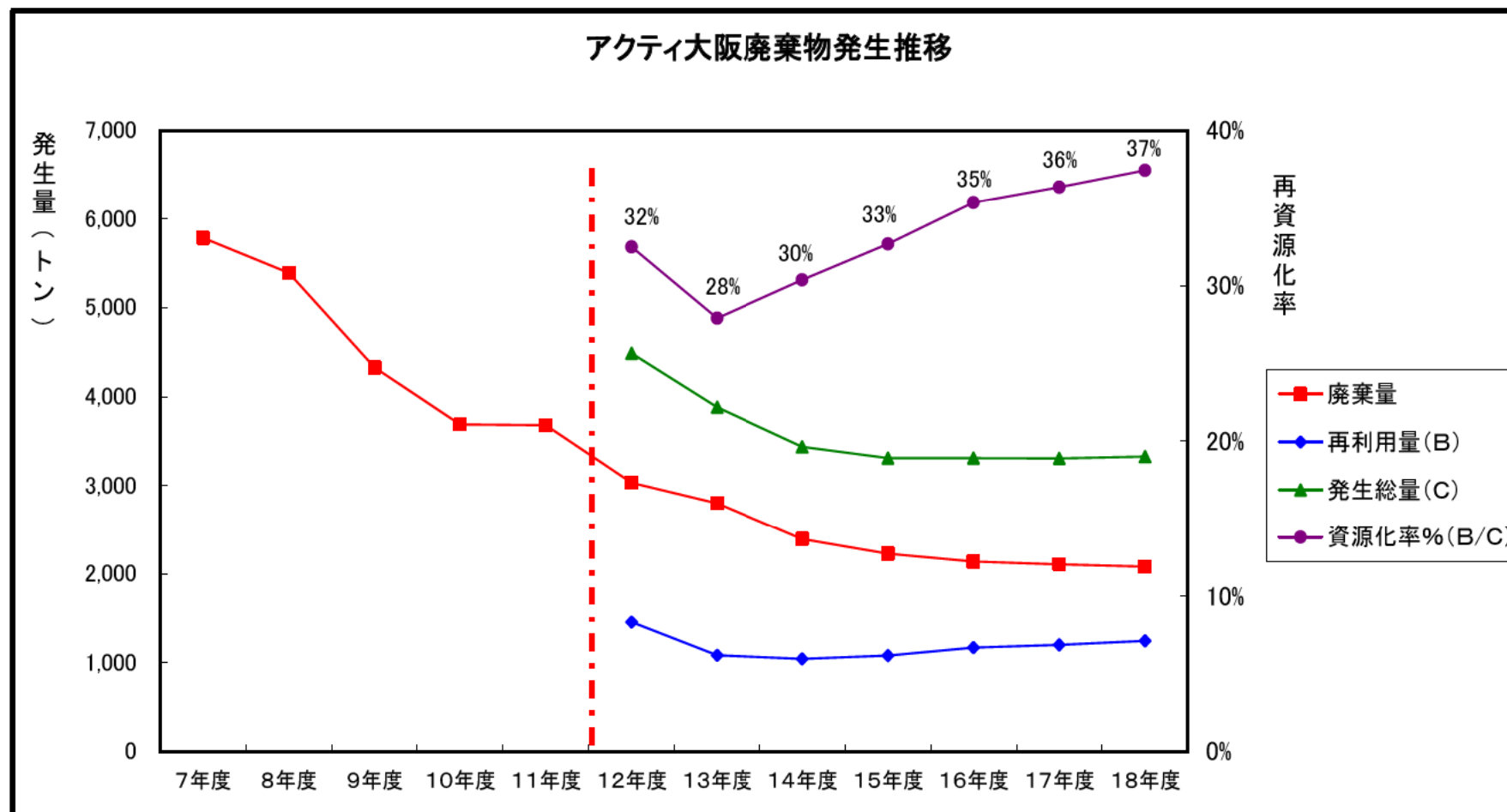
～ 大阪ターミナルビル株式会社での取組状況 ～

・ 大阪ターミナルビルにおける取組み	P1	・ ロータリードラム	P 9
・ アクティ大阪廃棄物発生推移（図1）	P2	・ 発泡スチロール置場	P10
・ アクティ大阪のごみ処理の流れ（図2）	P3	・ インゴット	P11
・ 廃棄物管理責任者看板	P4	・ 計量管理システム（図3）	P12
・ リサイクル分別カゴ車置場	P5	・ 計量管理システム	P13
・ 専用ダストカー	P6	・ 品目別バーコード（表 I）	P14
・ 専用ダストカー置場	P7	・ 食品廃棄物リサイクルフロー（図4）	P15
・ 分別等の指導掲示板	P8	・ 保冷库	P16

大阪ターミナル ビルにおける 取組み



(図 1)

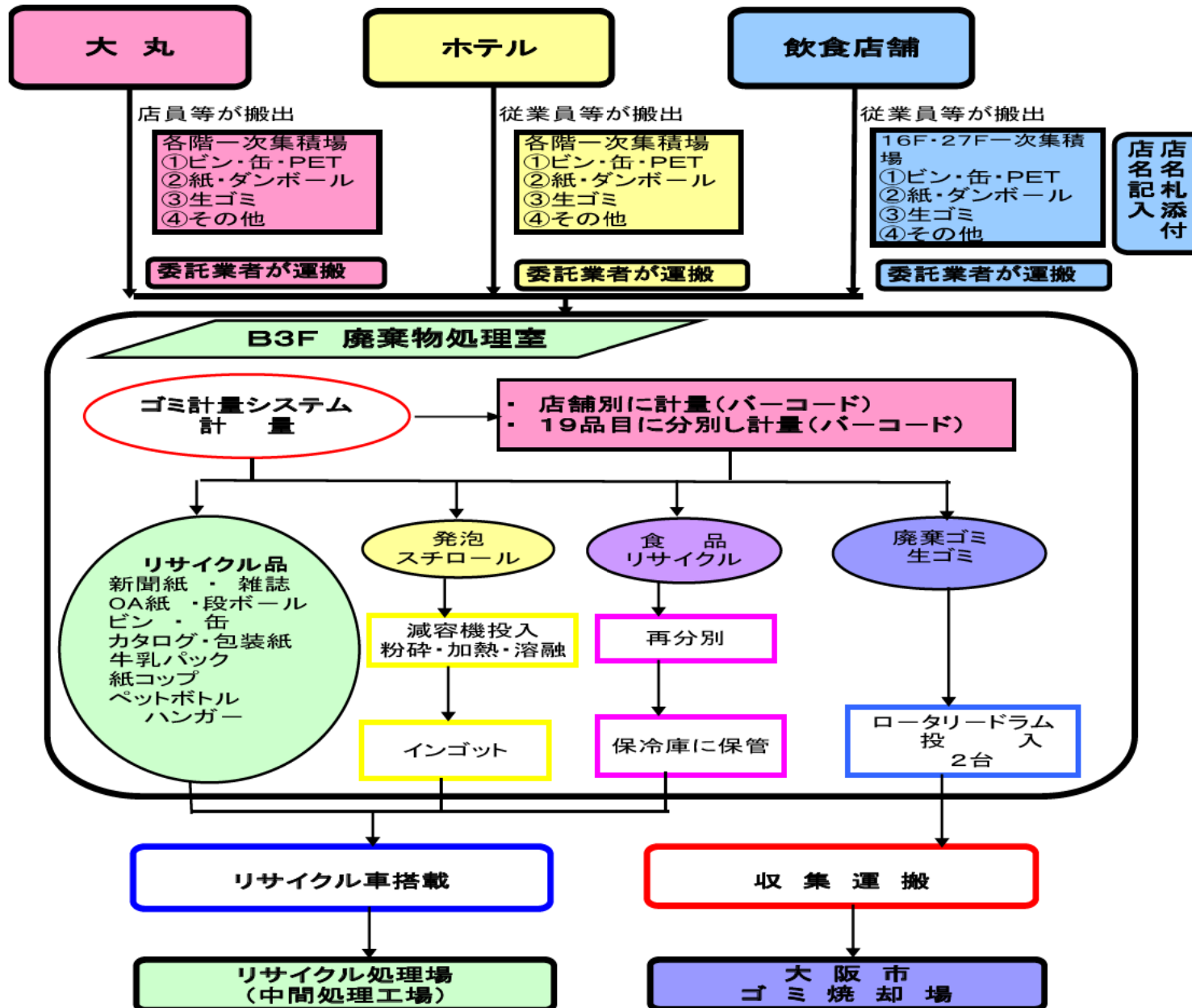


単位 = トン

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
廃棄量	5,789	5,392	4,327	3,688	3,678	3,031	2,798	2,392	2,227	2,138	2,104	2,081
再利用率(B)						1,458	1,083	1,043	1,081	1,169	1,201	1,245
発生総量(C)						4,488	3,881	3,435	3,308	3,307	3,305	3,326
資源化率%(B/C)						32%	28%	30%	33%	35%	36%	37%

アクティ大阪のゴミ処理の流れ

(図 2)



一般廃棄物保管場所

管理責任者 ○ ○ ○ ○

連絡先 保安部 [] - []

大阪ターミナルビル株式会社

廃棄物放

瓶ビール
ビン置き場

ミネラルウォーター
ビン置き場

ソーダ
ビン置き場

ホテル専用
ビン置き場

コカ・コーラ
ビン置き場